

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動(理療科)
重点課題	あん摩マッサージ指圧を行う施術者としての患者の話を聞く力・必要なことを伝える力の向上
現 状	今年度理療科に在籍する生徒は、専攻科保健理療科2年生の2名のみである。中高年になって視覚障害者となり、新たな挑戦による自らの可能性と社会貢献の可能性を求めて本校に入学し、職業自立・社会復帰を目指している。生徒は入学前に、あん摩マッサージ指圧を実際に受けた、見たりした経験がなく、入学後も上級学年に在籍がなかったことから、手本・目標となるものがない中で知識・技術の習得を進めてきた。2年生になり、実際に施術を行うことを目指す臨床実習の授業等では、より専門的・実践的な知識・技術を学習する段階に入っているが、2名の生徒はあん摩マッサージ指圧施術において知識や技術と同じくらい重要であるといわれているコミュニケーションに対して苦手意識が強い。少しでも早い段階から苦手意識を克服し、施術者としての聞く力・伝える力を身に付けていけるようにすることが必要である。
達成目標	① 臨床実習においてコミュニケーションに関する生徒の自己評価・指導教員の評価 いずれも80%以上を達成 ② コミュニケーション力の向上に結び付く講演会・研修会等の実施 年2回以上
方 策	施術者としてのコミュニケーション力を患者の話を聞く力・必要な情報を聞き出したり、伝えたりする力と考え、次のことに取り組む。 ・臨床実習の授業においてあん摩施術を行う際に、コミュニケーションに関する評価表を用いて、生徒による自己評価と指導教員による評価(評価項目は共通)を行い、成果と次への課題を見出し、改善のための一助とする。 ・到達度試験(学期に一度の診察・施術の総合的な実技試験)において、聞く力・施術に必要な情報を聞き出す力・伝える力を評価し、改善向上につなげる。 ・コミュニケーション力を育てることをテーマに卒業生や外部の専門家などを講師に迎え、講演会・講習会を行う。 自ら気付き改善しようとする力が身に付き、施術者としてのコミュニケーションに対する苦手意識の克服とコミュニケーションの向上を目指す。

令和8年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	その他(寄宿舎)
重点課題	舎生と職員が一緒に運動に親しむための生活指導の在り方について
現 状	本校の寄宿舎には、小学部から高等部専攻科までの幅広い年齢層の7名が入舎している。余暇活動はCDを聴いたり玩具で遊んだりといった舎室での活動が中心である。運動面では、筋力トレーニングや廊下でのウォーキング、階段の昇降などを一人で行っている舎生が多く、体育館で運動する舎生はごく一部である。保護者からも健康づくりのために「運動をさせてほしい」という声が聞かれるが、自主的に運動する姿はあまり見られないのが現状である。そこで、寄宿舎の縦割り集団の良さを活かし、舎生同士が声を掛け合ったり、体育館での集団で取り組む活動を取り入れたりし、仲間と一緒に運動する楽しさを味わうことで、余暇活動の幅を広げ舎生の自立と社会性を育むことを目指す。
達成目標	① 体育館での運動を月1回以上達成する児童生徒が80%以上 ② 集団で取り組む運動的な活動を年2回以上
方 策	余暇活動の在り方や実施方法を見直し、充実を図る。 ・舎生に、舎泊日の機会に体育館での運動を定期的に設定することを伝える。 ・高等部の舎生や職員から体育館で身体を動かすことの良さや経験談を小・中学部舎生に放送や対話を通して伝える機会を設ける。 ・体育館での活動の際、簡単な係分担や運動の内容を舎生の話し合いで決め、やる気を促す。 ・複数で行う視覚障害者スポーツの基礎的な動きについて慣れ親しむ。 ・活動の実施月は気候の良い5月～10月の5か月とする。 ・体育館で運動するごとに、掲示した記録シートにシールを貼ることで、達成感を味わわせる。 ・体育館での活動を振り返ったり、感想を話したりすることで児童生徒の変容を捉える。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)